

ICA 総会に想う



勝部欣一(日本高齢者生協連副会長)

地産地消・社会的協同が合言葉

この10月12～17日、ソウルで開かれたICA総会に労協連の仲間とともに出席したが、特に注目されたのが、開会式での金大中大統領の特別挨拶と、それに応えた日本の全国農協中央会原田会長冒頭発言の中で述べられた「地産地消」と「身土不二」という長らく韓日両国で伝えられて来た言葉である。

地産地消はいうまでもなく、現在私たちが協同組合間提携で進めて来た産直運動や有機農作物推進運動に他ならないし、更には地域のクリーンエネルギーである太陽・風力・バイオ等を使ったエネルギーを生かす運動ともつながる深い意味を持った言葉として、今後協同組合運動の指針として強調されたことの意義は大きい。

また、ブラジルのロドリゲス氏に代わってICAの新会長となったイタリアのレガ・ナチオナーレのイバノ・バルベリーニ氏が大会終了前の就任演説の中で強調した「社会的協同組合」の言葉も、今後の協同組合運動の役割と目標として重要な内容をもつものである。

この「社会的協同組合」は労協連の菅野理事長からよく知らされていたことであるが、本家がICA会長となった決意を込めて訴え

られると、感動を禁じえなかった。

この総会の会場となったCOEXは新しく建った大きな殿堂で、今度のテロの目標となったニューヨークの貿易センターと同じ機能をもつだけに、出席そのものを危惧された向もあったが、何事もなく無事に終わった。しかし金大中大統領やバルベリーニ新会長は「テロは断じて許せない、しかしそれを生んだ世界的な貧困や差別などの原因を突き止め、それを直して行かなければいけない」と強調されていたのが印象的であった。

99カ国8億人の生協・農協・漁協・労協の組合員を組織し、医療・共済・住宅・信用・旅行等の専門分野も複合的にまとめている、この世界最大のNGO組織が平和と協同の経済組織としてまとまって行ければ、生活の底辺から本当に平和な地球がつけられると強く想ったのである。

サービス協同組合の強化うたわれる 日本の高齢協について発言

私は総会2日目の第3分科会に出席したのであるが、第1分科会が食料の安全性の問題を論じ、第2分科会が信用事業や共済事業のオンライン化推進等を討議したのであるが、

第3分科会は福祉活動としての各種サービス事業を強化すべきことが強調された。

特にイタリア・レガのブルーノ・ブサーサ氏の高齢者福祉を社会的協同組合の重要な使命として具体的事例をあげてのレポートは大きな意義をもつものであり、質問に入ったとたん手を挙げたら議長がうまく取り上げてくれたので、日本における高齢協全国連合会結成に至った報告を織り込んで発言した。

本来ならきちんとあらかじめ発言通告をし、スライドも使ってやるべきことが、今回は出来なかったのは残念である。

韓国は失対事業として各種活動を開始

既に紹介されていることだが、半ば公共的な失対事業として、農業・食堂ゴミ処理・電気器具のリサイクル等が一つのコミュニティ協組として市の行政ともかみあって行われている。そのうちソウルの郊外で、日本にも時々来られる金牧師が提案している組織を労協グループとして見学したが、何せ働いている組合員がとても明るいので強く印象に残った。

2年前、釜山市で見学した25万世帯の団地での生ゴミ堆肥化有機農産物運動も徹底した大衆路線で定着していると聞いたが、韓国の人々はよく討論し、よいとなるとその実践力はすさまじいものがある。

多くの友人と旧交を温めあう

この15年間いろいろお付き合いしてきたリーダーの方々とお会いする機会も得たのであるが、消費者連盟会長の鄭光謨(チョン・カンモ)女史は相変わらず赤い服を着てあらわれ「日本は間違ったことをしなさんなよ。

私たちはすぐ真似するから」とニヤリと笑われる。一方で世界禁煙連盟のアジアの会長になったり、韓国女子ゴルフ連盟の会長であったりされる。一番つきあいの長い人である。

金鐘鑑(キム・ジョンイル)牧師はプロテスタントのトップリーダーだが、生活クラブとよく交流されて各地教会に信用協同組合と共同購入組織をつくられた実践家である。農事学校という名の成人教育組織の理事長として長らく韓国青年の活動家を団体や軍の垣根をはらって培われた人である。東京大学農学部在学中に南北統一を進める同士を糾合し、対話前進の原動力にもなった人だが、常に笑みをたたえ忙しい方である。

金東熙(キム・ドンヒ)ダンコク大教授は韓国に生協法がなかったので苦勞されたが、一昨年やっと立法が通り、生協が動き始めたところで生協連の会長をされたり、大学生協づくりを進められたり、色々と協力したこともあり感慨無量であった。

鄭長燮(チョン・チャンソプ)さんは農業技術者協会の会長から顧問になられたところ、大勢の農民を日本に連れてこられ、精力的に生協も見学されて来た方である。

これらの方々には丁度日本語が多く使われているときに教育されたので、日本語がよく分るので話し易い。しかしこちらは韓国語を勉強しない。これからは言葉の問題が一層大事になると思う。

ICA 総会ではスウェーデンのマルコス元 ICA 会長やイギリス協組連のウイルキンソン元専務理事との ICA 選挙の苦勞話をする機会をもったのも嬉しかったが、これらの人々も引退を表明したり歴史の移りを共に感じた総会参加であった。